

熊本県における観光周遊トリップの特性分析

九州東海大学 正 員 溝上 章志
九州東海大学 学生員 永田 稔平

1. はじめに

本研究は、熊本県観光統計表¹⁾、および熊本県内主要観光地において昭和56年と61年の2時点で実施された観光客流動調査²⁾データを用いて、①熊本県における観光流動の実態、②観光周遊パターンの経年変化、③観光周遊パターンの構成とそれに影響を与える要因分析を行い、熊本県における観光周遊トリップの特性について考察することを目的としている。

2. 熊本県における観光流動の実態

熊本県観光統計表によると、昭和52年から61年までの過去10年間の観光客延数の推移は図-1に示すとおりである。昭和61年に県内を訪れた観光客の総数は約3000万人であり、昭和52年に比べて35.8%、前年に比べても9.5%の増加となっている。その内訳は宿泊客が670万人で、この10年の間はほとんど増加していないが、日帰客は2300万人で、52年と比べて45.7%の増加となっている。県外・県内客別には県外客が約1600万人で16.7%、県内客は約1400万人で66.3%の増加となっており、県内客、日帰り観光客延数の増加による観光客延数の増加が特徴的であるといえる。

次に、県内の主要観光地である北部地域、阿蘇地域、熊本市地域、天草地域の4地域を対象にして地域別に観光実態の分析を行った。図-2、3は、地域別の宿泊・日帰別客数と県外・県内別客数の推移を示したものである。これをみると、北部・阿蘇地域の日帰客の急増と阿蘇・熊本市地域での宿泊客の増加、県外・県内客別では熊本市地域での県外客の増大と阿蘇地域の県外・県内客の増加が特徴的である。これは熊本市地域を泊地とした北部・阿蘇・熊本市地域への周遊観光が増加したためと考えられる。

3. 観光周遊パターンの経年的変化

ここでは昭和56年と61年との観光周遊パターンの比較を行う。図-4は両年の各周遊パターンをとる観光客比率を表したものである。これより、昭和56年には48.4%もあったピストン型一ヶ所観光客比率が、61年には28.3%に減少し、逆に二ヶ所以上の観光地を周遊する周遊型観光客比率が急増している。さらに、昭和56年にはみられなかった周遊パターンをとる観光客も

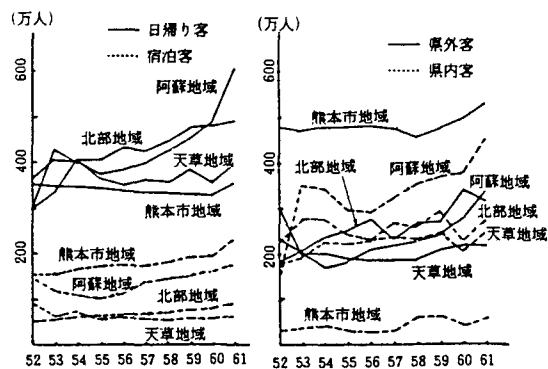


図-2 地域別宿泊・日帰別客数の推移

図-3 地域別県外・県内別客数の推移

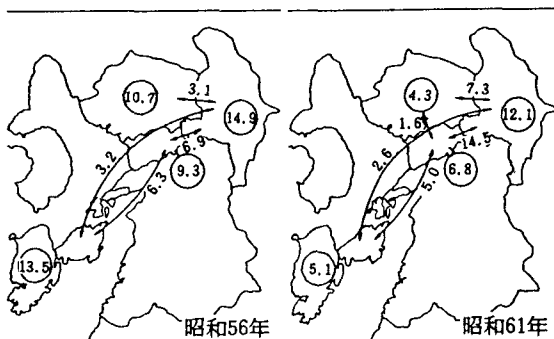


図-4 周遊パターン別観光客比率

られるようになった。

次に、各観光地域への入込み客数の集計を行い、地域別延入込み客数の比率の推移を分析した。その結果が表-1である。これより、阿蘇地域、熊本地域への入込み客の増加、天草地域への著しい減少が分かり、これは熊本県観光統計表による観光実態分析結果の裏付けとなろう。

表-1 地域別延入込み客比率の比較

観光地域	昭和56年	昭和61年
北部地域	385 (14.3)	280 (12.3)
阿蘇地域	845 (31.4)	838 (36.8)
熊本市地域	751 (27.9)	768 (33.8)
天草地域	710 (26.4)	389 (17.1)

注) () 内は%を示す

4. 周遊パターン構成に影響を与える要因の分析

昭和56年に実施された熊本県観光客流動調査の原票を集計し、上記4地域を周遊する40の周遊パターンを抽出し、これらの周遊パターン構成に影響を与える要因の分析を行う。表一2はこの40の周遊パターンとそのパターンを示す観光客数を示したものである。ここで、パターンを示す1から4の数字は、北部、阿蘇、熊本市、天草の各地域を表している。40の周遊パターンに分けても、阿蘇・熊本市地域を含むものが多く、一ヶ所パターンの観光地としてはあまり観光客数が多い熊本市地域も、二ヶ所以上の複数観光地を周遊するパターンの周遊地としては最も多くなっている。三ヶ所以上を周遊する観光客も13%もある。

次に、これらの周遊パターン構成に影響を与えようと考えられる要因について分析を行う。まず、季節別に周遊観光地数の比較を行う(表一3参照)。春と夏には複数ヶ所を周遊するパターンが約50%を占め、その中でも春はこの比率が特に高く、平均入れ込み地域数も1.65と最大である。一方、冬は一ヶ所観光の比率が70%を超えており、平均入れ込み地域数も1.37と小さい。季節別の地域別入れ込み客数比率(表一4参照)をみると、北部地域は春の入込み客数比率が低く、秋に高い。熊本市地域は春と冬に高く、夏に低い。天草地域は冬に低く、阿蘇地域は季節を問わず平均的に入込みがあることが分かる。以上より、季節は周遊する観光地とそのパターン構成に影響を与えることが分かる。

表一2 周遊パターン比率

パターン	%
1000	14.4
1200	3.5
1230	0.5
1240	0.2
1243	0.1
1300	1.1
1320	0.3
1340	0.7
1420	0.2
2000	18.0
2100	1.3
2130	1.0
2300	5.0
2310	0.5
2340	3.9
2400	2.7
2430	0.6
3000	9.6
3100	0.8
3120	0.3
3200	4.0
3210	0.3
3240	0.3
3400	6.1
3420	0.5
3421	0.1
4000	15.5
4100	0.5
4200	1.3
4210	0.1
4230	0.3
4300	2.9
4310	0.2
4320	2.9

影響を与えることが分かる。周遊観光地とそのパターン構成は、県内への入路と出路の組合せによって影響をうけると考えられることから、ここでは入路による周遊パターンの分析を行う。表一5、6は、入路別の一〜四ヶ所観光客比率、地域別入れ込み客比率を示したものである。これから以下のことが分かる。福岡を入路とする観光客は一ヶ所の観光地に行くピストン型が64%を占めているのに対して、大分入路ではその比率が36%で、二ヶ所以上の周遊観光客比率が64%あり、平均入れ込み地域数も1.87と大きい。その他の地域からの入路でもピストン

表一3 季節別周遊観光地数

季節	一ヶ所	二ヶ所	三ヶ所	四ヶ所以上	平均
春	303 (49.8)	216 (35.5)	85 (14.0)	4 (0.7)	1.65
夏	178 (55.1)	105 (32.5)	37 (11.5)	3 (0.9)	1.58
秋	262 (65.0)	93 (23.1)	48 (11.9)	0 (0.0)	1.43
冬	117 (71.3)	34 (20.7)	13 (7.9)	0 (0.0)	1.37
合計	860 (57.4)	448 (29.9)	183 (12.2)	7 (0.5)	1.57

注) () 内は%を示す

表一4 季節別地域別入れ込み客数比率

季節	北部地域	阿蘇地域	熊本市地域	天草地域
春	146 (37.1)	299 (41.4)	282 (45.3)	260 (43.9)
夏	92 (23.4)	170 (23.5)	116 (18.6)	133 (22.5)
秋	110 (27.9)	180 (24.9)	139 (22.3)	151 (25.5)
冬	46 (11.7)	74 (10.2)	85 (13.7)	48 (8.1)
合計	394 (16.9)	723 (31.0)	622 (26.7)	592 (25.4)

注) () 内は%を示す

表一5 入路別周遊観光地数

入路	一ヶ所	二ヶ所	三ヶ所	四ヶ所以上	平均
福岡	538 (63.8)	228 (27.3)	70 (8.4)	4 (0.5)	1.60
大分	78 (36.1)	89 (41.2)	48 (22.2)	1 (0.5)	1.87
長崎	157 (57.3)	77 (28.1)	40 (14.6)	0 (0.0)	1.57
その他	76 (49.0)	52 (33.5)	25 (16.1)	2 (1.3)	1.70
合計	844 (57.0)	446 (30.1)	183 (12.4)	7 (0.5)	1.57

注) () 内は%を示す

表一6 入路別地域別入れ込み客数比率

季節	北部地域	阿蘇地域	熊本市地域	天草地域
福岡	248 (20.4)	378 (31.1)	289 (23.8)	300 (24.7)
大分	44 (10.9)	157 (38.7)	120 (29.7)	83 (20.5)
長崎	72 (16.7)	121 (28.1)	106 (24.6)	132 (30.6)
その他	31 (11.8)	63 (24.0)	100 (38.0)	69 (26.2)
合計	394 (17.0)	719 (31.1)	615 (12.4)	584 (25.3)

注) () 内は%を示す

型は49%と少なく、複数観光地への周遊型観光客比率が高い。入れ込み地域では、福岡入路で北部地域への比率が高いのに対して、大分入路では阿蘇・熊本市地域への入れ込み客比率が他入路と比べて高い。また、その他の地域からの入路では、熊本市地域への入れ込み客比率が高いことが分かる。このように、入出路も周遊する観光地とそのパターン構成に影響を与えていると考えられる。

5. 今後の課題

今後、周遊する観光地とそのパターン構成に影響を与えるその他の要因の抽出、人の行動規範に基づいた周遊パターン決定モデルの構築を行い、観光周遊トリップの需要予測手法を確立する必要がある。

1)熊本県観光統計表(昭和56年,昭和61年):熊本県熊本県商工観光労働部観光振興課。2)熊本県観光流動調査報告書一分析編一:熊本県商工観光労働部観光振興課